

霞ヶ浦北浦産魚類目録の追加

加瀬林 成 夫

The Supplement of the List of Fishes in Lakes Kasumigaura and Kitaura

Toshio KASEBAYASHI

Synopsis

Fish fauna including 27 families with 58 species and subspecies in Lakes Kasumigaura and Kitaura was reported by TANGE・KASEBAYASHI (1956). But as the author gets 2 more species, reports about them in this short note additionally.

はしがき

霞ヶ浦北浦産魚類については、すでに丹下・加瀬林 (1956) が 27 科 58 種および亜種を報告し、それらの魚種について産額および分布等の説明を加えた。その後霞ヶ浦北浦の湖沼学的な性状の変化等に伴い、その状態にも若干の変化がみられたものもあり、また新たに付け加えるべき魚種 2 種を得たので、それらの結果について簡単に報告する。

霞ヶ浦北浦の状況の変化

最近の霞ヶ浦北浦における湖沼学的な変化として、最も著しいものは塩素量の増加である。昭和 22 年以降昭和 32 年に至る間に観測された、両湖における塩素量の水平分布を第 1 表に示した。これによつても明瞭なように、年によつての変動はみられないけれども、昭和 30 年以降に塩素量が急激に増加し、海水の影響が相当にみられることがわかる。これは最近、霞ヶ浦および北浦の排水路に当る利根川および北利根川等の治水を目的とした改修工事の結果によつて、水位が低下したことが要因であろうと思われる。ともかく、それに起因するものであろうと思われるのであるが、最近になつて、海または汽水域との間を往復する遡河・汽水魚および海魚等の中には、従来きわめて稀にしかみられなかつたものでも、割合普通にみられるようになったものも多くなつて来た。とくにマハゼ *Acanthogobius flavimanus* (T. et S.) は秋期から冬期にかけて、北浦の南部地区において約 3,000 貫の漁獲がある。霞ヶ浦の南部でも、コノシロ *Konosirus punctatus* (T. et S.) 等海魚類の混獲が多くみられ霞ヶ浦の入江および注入河川等にも、春期におけるアユ *Plecoglossus altivelis* T. et S. の遡上が相当目につくようになつて来た。

第 1 表 霞ヶ浦北浦における塩素量の水平分布

単位 mg/L

地域 年月日	霞ヶ浦				北浦			備考
	土浦入	高浜入	主部	湖尾	北部	中央部	南部	
1947・—・—	—	30以下	30~33	35内外	50以下	50~55	100前後	増沢・津村 松田
1953・7・13-15	23~32	21~27	33~39	38	18~24	44~49	83	
1955・9・15-16	40~56	42~62	94~99	102	45	136	208	
1957・8・1~2	46~69	28~76	78~79	83	31	114	144	

目録の追加

I. コイ科 *Cyprinidae*

1. ツチフキ *Abbottina rivularis* (Basilewsky)

採集記録⁽¹⁾

XI, 29, 1955. 行方郡北浦村三和, 張網, 98mm. (加瀬林) (水振).

I, 5, 1955. 稲敷郡美浦村木原, 張網, 86mm. (加瀬林) (水振).

最近になつて利根川から湖内に侵入してきたものようである。霞ヶ浦北浦においては, 張網および地びき網等によつて稀に混獲される程度であるが, 利根川筋においては相当に繁殖している。

II. サヨリ科 *Hemiramphidae*

2. サヨリ *Hemiramphus sajori* (Temminck et Schlegel)

採集記録

X, 2, 1957. 行方郡麻生町麻生, 大徳網, 235mm. (加瀬林) (水振).

X, 22, 1957. 土浦市沖宿, 大徳網, 205mm. (加瀬林) (水振).

霞ヶ浦北浦および北利根川等において, 大徳網・長ぶくろ網および張網等により, 夏期から秋期にかけて混獲される。しかしクルメサヨリ *Hemiramphus kurumeus* Jordan et Starks 程多くはない。

参考文献

- (1) 雨宮育作 1924: 牛柄より得し「サケ」の幼魚. 水産学会報 3 (4). 301.
- (2) 茨城県水産試験場 1912: 霞ヶ浦北浦漁業基本調査報告. 1.
- (3) 茨城県水産振興場 1947: 淡水魚増殖の効果概要. (謄写印刷).
- (4) 加瀬林成夫 1957: 霞ヶ浦北浦に移殖された水族の記録およびその経過について. 茨城県水産振興場調査研究報告第2号. p. 30~31.
- (5) ————・須能正美・中野勇 1957: 昭和30年度霞ヶ浦北浦湖沼観測報告, 茨城県水産振興場調査研究報告第2号, p. 11~19.
- (6) ————・三浦紀人 1957: 霞ヶ浦北浦において漁獲された小形のアオウオ *Mylopharyngodon piceus* (Richardson) について. 茨城県水産振興場調査研究報告第2号. p. 26~29.
- (7) 増沢譲太郎 1947: 昭和22年夏期霞ヶ浦北浦観測第1報. 中央气象台陸水報告 4. p. 3~10.
- (8) 松原喜代松 1955: 魚類の形態と検索. 石崎書店.
- (9) 中村守純 1947: 渡良瀬川流域で漁獲された小形のソウギョ及びハクレンについて. 資源研彙報 14. p. 31~34.
- (10) ———— 1949: 関東平野に移殖された淡水魚.
- (11) 岡田弥一郎・中村守純 1948: 日本の淡水魚類. 日本出版社.
- (12) 桜井徳雄 1950: 霞ヶ浦湖沼観測報告. 東京管区気象研究会誌 7. p. 98~129.
- (13) 高塚半衛 1933: 霞ヶ浦北浦浪逆浦の魚類. 全国中等学校博物教育会会報. 1 (2). p. 23~34.
- (14) 丹下孚 1949: 霞ヶ浦北浦附近におけるソウギョ (草魚) 及びハクレン (白鱈) の繁殖について, 水産庁資料課調査資料 12.
- (15) ————・加瀬林成夫 1956: 霞ヶ浦北浦産魚類目録. 茨城県水産振興場調査研究報告昭和28・29年度. p. 1~10.

(1) 採集年月日, 採集地, 漁具漁法, 全長, (採集者)・(標本所蔵場所)を示す。